

平成27年度第2回 名張市地域公共交通会議 議事概要

日 時 平成27年11月12日（木）
午後2時30分より

場 所 名張市勤労者福祉会館 大会議室

出席者：（敬称略）

（1）委員

木寺 正仁（市民公募）
橋本 マサ子（市民公募）
都志見 耀代（市民公募）
室谷 芳彦（地域づくり代表者会議副会長）
清水 系慈（名張市身体障害者互助会会長）
藤本 孝一（名張市保育所（園）保護者会連絡協議会会長）
松本 幸正（名城大学理工学部教授）
中平 恭之（近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科准教授）
仲 範和（三重交通株式会社伊賀営業所所長）
深山 美芳（深山運送有限会社代表取締役社長）
川瀬 和也（代理出席、株式会社メイハン常務取締役）
豊永 育子（公益社団法人三重県バス協会）
鈴木 嘉也（代理出席、三重交通労働組合伊賀支部書記長）
岩崎 彰（三重県伊賀建設事務所副所長兼保全室長）
清水 和彦（三重県名張警察署交通課長）
野田 敏幸（国土交通省中部運輸局三重運輸支局首席運輸企画専門官）
伊藤 郁夫（代理出席、三重県地域連携部交通政策課生活交通班長）
前田 國男（名張市副市長）
松本 壽次（名張市都市整備部部長）

（2）オブザーバー

勝木 祥文（名張商工会議所総合商業部会長）
松本 一彦（代理出席、三重県県土整備部都市政策課主幹）

（3）事務局

都市整備部都市計画室3名

会議の公開・非公開 : 公開

傍聴人：0名

報告案件：①地域公共交通に関する現況整理及びニーズ調査結果について

協議案件：①名張市の地域公共交通の課題について

②都市総合交通戦略の戦略プランの検討について

③その他

1. 会長挨拶

2. 議事内容

<報告案件>

①地域公共交通に関する現況整理及びニーズ調査結果について

事務局（請負業者） （報告）

座長 アンケート調査結果についてご報告いただきました。乗り込み調査については近大高専の中平先生にお世話をおかけしたということで、ひとことお願いします。

委員 今回、近大高専の学生がバスの乗り込み調査やバス停での調査票の配布をさせていただき、現在、学生が分析をしようとしているところです。調査の中で、学生が1点気になることを言っていて、市外から来ている学生ですが、バスにどうやって乗ればいいのか分かりにくいとのことでした。私も気になったので桔梗が丘駅に行った際にバス乗り場を確認したところ、普段利用しない人や市外から来た人にとっては分かりにくいと感じました。案内等も見当たらず、バス停が置いてあるだけという状況になっています。アンケートを解析して需要を掘り出していくことも大切ですが、現状を見ることも大切であるということを経験から考えさせられました。

座長 ありがとうございます。バスは分かりにくい、というのは名張に限ったことではなくてどこでもそうです。これは課題として取り組んでいかなければなりません。

委員 きめ細かいアンケート調査を実施いただいて、広い範囲での調査結果が分かってきました。ナッキー号、地域コミュニティバスの走っている地域では65歳以上の方がバスを利用できているというのが見えてきました。地域コミュニティバスの方々が苦勞して地盤を作っていたと思いますが、ナッキー号も含めて他の地域でどうやってそういう形を作っていくかをこれから考えていくことが大事だと思います。そのために、現在コミュニティバスを走らせている地域にどんな困難があるのかを見極めていく必要があると思います。このアンケート調査結果を突き詰めていくのとあわせて、現在走っているバスについても、今出されている課題を改善しつつ全体の交通網を再編していくためには、大きく全体を見直すグループと現在運行している部分に修正を加えていくグループにグループ分けし、互いに意見を出し合って総合的に判断していくのが大切だということが少し見えてきました。

座長 貴重なご意見だと思います。進め方という意味では委員が言っていたとおりにです。このアンケート結果を踏まえながら、一部を修正することもあるかもしれませんが、大きく見直すこともあるかもしれません。前回もお話させていただきましたが、場合によってはゼロベースから始めなければならないかもしれません。そこを皆さんでご協議いただきたいと思います。

今回のアンケート調査では利用者の意見はしっかり吸い上げられていますが、運営者側の意見が欠けていると思います。特に地域コミュニティバスに関しては、運営上困っていることがあるはずですが、その点については事務局いかがでしょう。

事務局 今回、アンケート調査結果と市で持っている現状分析のデータを皆さまにお示しさせていただきました。この後説明させていただきますが、調査結果をもって課題の整理・分析を経て目標を定め、目標に向かって施策をどう展開していくのかを示していくこととなります。地域コミュニティバス、各交通事業者様については、現在おかれている現状と課題及びご提案いただける施策等について聞き取りをさせていただければと考えております。ま

た、市民代表、各種団体の方々にも聞き取りをさせていただければと考えております。

座長 この後、課題を取りまとめて目標設定をしていく中で、事業者の方々、団体の方々にも聞き取りをしていただき、そこから問題を抽出していただけるとのことですので、ご理解いただきますようお願いいたします。

委員 自分なりに資料を分析してみたところ、三交バスの通勤利用が多いと思います。特に梅が丘、つつじが丘、百合が丘が多く、便数もたくさん出していただけていますが、なぜ、駅ばかりなのかと感じています。通勤、通学の時間帯を過ぎれば、ほとんどが買い物、病院の利用となるが、乗り換えのため一度駅に出なければなりません。今後、高齢化が進む中で、日中は商業施設や病院への直通便を出すなどの配慮をした方がうまくまとまるのではないかと思います。

座長 今のご意見について、事務局からどうですか。

事務局 今回はお示しできておりませんが、市民アンケートにはバスで行きたい施設という項目があり、委員がおっしゃられるとおりイオン名張店、アピタ名張店が1位、2位を占めております。バスで行きたい施設の分析も進めながら、どういったところで結節または発着を整えていくのがいいのかについてもお示しできればと思います。

座長 路線バスは商業施設を通っているものだと思っておりますが、今のお話では、必ずしもそうでないところもあるようです。場合によっては、店舗の出店に合わせて路線の見直しがされていないという可能性もあるかもしれません。これからの高齢化を考えた場合、商業施設へのバス路線の提供は重要になってきますので、検討課題の一つです。これについて、三重交通さん何かありますか。

委員 ただいまのご意見は真摯に受け止めていかなければと思います。ただ、事業者がすべて対応していかなければならないのか、行政と地域と一体となつてということもあるのではないかとと思います。大型商業施設は郊外の立地が多く、大型の駐車場が整備されているためバス利用から離れていくという面がありますが、バスを利用する方もお見えになります。よその事例で、行きはバスを利用し、帰りは荷物があるのでタクシーで帰るということも聞いたことがあり、そういったことも含めて今後考えていく必要があると思います。

座長 ぜひそういう形で実現できればいいと思います。

委員 私もバス事業者として錦生のコミュニティバスの運行に携わっておりますが、乗客が少なく、将来的には続かないと考えています。あららぎ号のように市が運営し、自治会が運行することによって、地域にも浸透すると思います。そのうえで、バス事業者が幹線的の役割を担うのが一番良いと思います。本来は、行きたいところに行けるという意味でデマンドが一番いいと思いますが。

座長 それについては、この後網形成計画の中でバス路線も幹線、支線、地域での運行などの性格付けをしていくことになり、そこでの運営応報、組織の形成方法ということになってくるかと思います。事務局いかがですか。

事務局 本会議にお集まりの事業者さんそれぞれの担っていただいている役割を統合もしくは連携したネットワークとして網形成計画を作り上げていくということになります。一方、地域で運行いただいている部分につきましては、地域の運行協議会に「今、何が負担になっているのか」ということを聞き取りさせていただき、皆さまとともにどうすれば地域の運行を支えていけるのかということを考えていければと思っております。

座長 地域で運行できる仕組みを作るときに重要になるのは、三重交通も含めて公共交通全体の

役割分担を明確にしていくということだと思います。路線が重なっているところがあるならどちらがどういう風に役割を担うのかということをお場で決めていくことができると思います。名古屋市の話ですが、新たにショッピングセンターができる際に、周辺の渋滞が懸念されるため、なるべく自転車で来てもらうための策をショッピングセンター自体が考えています。具体的には、自転車で来るとポイントがたまり、10ポイントで50円になるとのことです。そこで問題になるのが荷物です。重いものを買ったときは宅配で送れるようにしてほしいという意見があり、ショッピングセンターが検討するということになりました。バスで買い物に出かけた際にも、重い荷物は宅配で送るということになっていけばいいと思います。そういう仕組み作りについても、商工会の方が来ていただいておりますのでいかがですか。

オブザーバー このアンケート結果から、行きたいところへ短い時間で行けるというのがニーズでありいろいろな所を経由して目的地へ向かうということが時間のロスになるため、公共交通ではない手段をとるというのもあると思います。団地からバスに乗れる方はまだしも、市街地の高齢者は、歩いて買い物に行き帰りの荷物はどうしているのかという疑問を持ちました。今、バスは小型化されているので買い物施設を回るようなバスができればよいと思います。そういう点にコミュニティバスの穴があるのではないかと思います。また、海外で行先によって色が分けられているバスを見たことがあります。三重交通のバスについても、もっと見た目に分かりやすくすればバスに対する認識も変わってくるのではないかと思います。

宅配の件については、高齢化と人口減少が進んでいく中、商業者としては取り組んでいかなければ生き残っていけないと思います。バス事業者とタイアップして考えていければと思います。

座長 公共交通側と商業者側が連携して皆さんによい方向に進んでいけばよいと思います。市街地に空白地域があるのではとのことですが。

事務局 市街地にお住まいの方には、道路が狭隘であることから病院や主要施設へのアクセスにご不便をおかけしているかと思いますが、こういった移動の支援ができるのかということになると、ひやわいに代表されるような歴史的な街並みを残しつつ、こういった交通網を形成していくのかということをお歩行者、自転車の計画なども含めて交通戦略の方で考えていきたいと思っています。

座長 私も名張という郊外の団地を何とかしなければと思ってしまいますが、市街地の利便性も著しく下がっている可能性もありますので、確認をいただき、そのニーズも忘れずにとらえていく必要があります。また、バスの色を変えるというのは素晴らしいアイデアだと思います。ぜひ皆さんにわかりやすい仕組み作りについてご提案をいただきたいと思っています。

委員 美旗地域づくり組織の会長をさせていただいており、コミュニティバスはたっこ号について準備委員会の時からリーダーとしてたくさんの仲間と知恵を絞って取り組んできました。最近、ナッキー号のダイヤが変更になったことで困っています。ナッキー号のダイヤが変わると、地域コミュニティバスのダイヤをすべて変えなければならず、また、公共交通会議での承認が必要となり、非常に労力が要ります。我々は、ナッキー号を基幹的コミュニティバスとして、地域コミュニティバスは支線の役割であると考えています。行きもコミュニティバスで出かけ、帰りもコミュニティバスで帰れるよう、まずナッキー号の更

なる充実が必要であると考えます。

先ほど、近大高専の学生がバスが分かりにくいという話がありましたが、名張駅と桔梗が丘駅にすべての路線が掲載された路線図を整備し、時刻表と乗場が分かるようにすればよいと思います。

座長 今ご指摘いただいたことはこれから説明のある「課題」のところに書かれているはずで、まさにその通りだと思います。ちなみに集約するというのは、まさに今求められている姿であり、網形成計画ではまさにそれをやりなさいということになっています。

委員 アンケート結果の「ナッキー号を往復利用しない理由」として「車で送迎してもらえから」という選択肢がありますが、私自身は車を所有していないので家族であっても送迎を頼むのはつらいところもある。そういうアンケートからは見えてこない部分もご理解をいただけたらと思います。名張で生活するには自動車がないと無理で、自転車にしても坂道が多く、子供を乗せるので荷物の問題もあります。桔梗が丘西に住んでいますがバスが通っていません。高齢者の利便性なども含めて総合的に考えていただけたらと思います。また、アンケート結果から、公共交通維持の取組や地域懇談会に参加したいという声が多いので、実際に困っている人の声が聴けるような、市民の参加しやすい懇談会の開催を強く望みます。交通は生活の第一の基盤だと思うので、高齢者はもちろんのこと、子育て世代のことも考慮していただきたいと思います。以前にナッキー号を利用した際に、ベビーカー利用者には車内は狭く、また、ダイヤに遅れがありました。未来につながる公共交通を考えた時、子供にとっても魅力のある公共交通の姿を示すことが大切であると思います。

座長 私も同感しております。一点目の車での送迎については、「やむなく」という面もあるということですが、私たちも理解しております。そもそも、往復利用されていないことが問題であり、利便性が悪いということだと思います。これを今後の課題につなげていかなければならないということです。地域懇談会については、地域の方々の声を直接聞く場として機会を設けていただくことになっています。それから、子育て世代の利用は他市でも増えてきています。これは、名張でも課題として考えていかなければならないと思います。あと、ダイヤについても実際にどれぐらいの遅延が発生しているのか確認の必要があります。事業者への聞き取りの際に、合わせて運行状況の確認もお願いします。誰からも魅力のあるバスを目指して、行政だけでも事業者だけでもなく、みんなで取り組んでいきたいと思えます。

委員 アンケートを実施されたことは素晴らしいと思いますが、アンケートは理想像や高度な要望ではなく最低限のニーズであると思います。アンケート結果を受けてそこを目指すのではなく、もっと抜本的にまた将来的なニーズにも応えていけるような方策を考えていけたらと思います。

座長 現状の課題に対応する策を出すのではなく、抜本的に、まちづくりも含めてということになると思いますが、活性化再生法、交通基本法ではそういうところを目指しなさいとなっています。事務局いかがですが。

事務局 市では、平成21年に改定の都市マスタープランの中でも、それぞれの拠点を集約しながら拠点を交通で結ぶ集約連携の都市構造を目指しております。そのためにどういう交通が引けるのか、どういうネットワークが組めるのかということをご審議いただければと思います。

座長 まだまちづくりについての説明がなく公共交通ばかりになっていますが、頃合いを見て街がこんな姿になっていく、その姿に合わせてこういう公共交通を引いていくということを説明いただければと思います。まちづくりについては、予算がたくさんあって駅前再開発をするというわけにはいかないの、できる範囲でやっていくということをご認識ください。また、もしこんな分析をやってほしいということがあれば事務局へお伝えください。

<協議案件>

①名張市の地域公共交通の課題について

事務局 (資料に基づき説明)

座長 現状、アンケートを中心にまとめていただいた課題ということになります。前半、皆さんからお聞かせいただいた課題につきましても整理しなおして確認いただきますが、その他に、こういう課題が抜けているというのがあればお聞かせいただきたいと思います。

委員 今、名張市が走らせているバスとしては、ナッキー号と地域コミュニティバス及びもっと小さい範囲で走らせている保健福祉にかかわるバスがありますが、まちづくりの観点から見れば一体的にできないのかと思います。今まで、それぞれ縦割りでやってきたものを、子ども、高齢者、障がい者などすべて含めて一体的、効率的にすれば、補助制度の違いなどもあり難しいかもしれませんが、理想的なものになると思います。

座長 今言っていたように、福祉バス、スクールバス、施設送迎など色々考えられますが、整理されていますか。

事務局 都市計画室の業務として所管しておりますのが、ナッキー号、あららぎ号の運行及び地域コミュニティバスの支援といった生活交通の分野になります。あと、他部署のものとして、社会福祉協議会が運行している福祉バス、同じく福祉分野で地域で担っていただいている会員制の自家用運送、それと、教育委員会が所管している通学バスがあります。おっしゃっていただいたような効率化ができないかを以前に検討したこともございます。一体的な見直しができればよいのですが、規制や法制度の違いなどもありますので、検討の必要があります。

座長 すべてを効率化すると逆に使いにくくなることもあります。福祉と公共の役割分担をしっかりと検討する必要があります。お互いの役割を明確にしながら効率化できるところは効率化し、特化すべきところは特化するということによいと思います。

委員 ナッキー号を基幹的コミュニティバスとして地域コミュニティバスをそこへ結節するのが一番だと思います。美旗地域では、当初導入時にバスは必要ないと言っていた地区で、今になってやはりバスを回してほしいという要望が出てきており、ルート、ダイヤの改正について検討中です。年度内に交通会議にお願いをすることになると思いますので、その際はよろしくお願ひします。また、赤目地域の一部について交通空白地になっていますが、相当の面積があり、人口もそこそこあります。バスの導入について、地域での検討を開始されていますが、赤目地域づくりの会長が意見のとりまとめに苦勞しており、とりあえず中心となる部分だけでも走らせてみればどうかとアドバイスをしています。本会議に案件が上がってきた際には、よろしくお願ひします。

座長 前半については、先にもご指摘いただいた内容で、後半については、地域で発案して動き出す仕組みを網形成計画にも位置づけしていければと思います。

委員 今回のコミュニティバスの現状では、費用対効果が上がっていないと思います。市の負担も大きく、また、運営者も苦勞していることと思います。費用対効果が上がるには利用者が増えればよいのであって、利用者が増えるには便利であればよいと思います。便利さをどうするかが課題であって、今までの対策は対症療法的に過ぎないのだと思います。現状をどうするかだけでなく、利用者も事業者も納得できる方法で進めていただきたいとします。

座長 そこは皆さんからお知恵をいただいて考えていかなければならないと思いますが、ただし、「いくら便利なバスでも自家用車には勝てない」ということを認識しておかなければなりません。1時間に60本のバスがあっても自動車を利用する人にはバスに乗ってもらえません。どうすれば乗ってもらえるかという、魅力のある拠点に便利に行ける公共交通があり、公共交通にアクセスしやすい住宅地があるということだと思います。それをやるために街を中長期的に変えていこうということです。一方で、今車がなくて困っている方やこれから車をつかえなくなって困る方を救っていくのは行政の役割です。そこを切り分けながらともに良い方向になるように描いていかなければなりません。それを今やらなければ、街はどんどん衰退していってしまいます。

委員 委員の皆さまが地域公共交通を考えるうえで、今後のまちづくり、福祉、教育など日常生活を送るうえで必要な部分について、連携を取らなければならないという意見が多くみられましたが、国土交通省としましても地域公共交通網を形成していくうえで、今まであまり見てこなかったまちづくり、福祉、教育といった分野と連携して公共交通を考えていただきたいとします。また、持続可能な公共交通ネットワークを目指して、見直し・再構築をいただき、網形成計画を策定いただければと思います。名張市における課題の中で、鉄道とバスを公共交通の軸として捉えていただいているところですが、もう一つタクシーという公共交通もありますので、タクシーの役割分担、位置づけも計画の中に反映いただければと思います。交通事業者への聞き取りについて、タクシー事業者へもお願いします。

事務局 ご指摘いただいたように、タクシー事業者にも、意見、課題等について聞き取りをさせていただき、後の会議で報告をさせていただければと思います。

座長 課題についてA、B、C、Dと4つの柱が挙げられております。皆さんからいろいろな課題を出していただきましたが、それが入っているかどうかは事務局で確認いただくとして、大きな柱はこの4つになります。委員から費用対効果や運行を続けていけないといった意見がありましたが、これは持続可能性ということであり、持続可能な仕組みを作っていくということは大変重要なことです。

委員 4つの中で一つ気になるのが、Aの鉄道及びバス交通ですが、いろいろな所で交通に携わっている中で、バスにこだわる必要はないと考えています。先ほどタクシーの話も出たように、タクシーの他にも様々な移送手段があります。バスにこだわりすぎると、結果として地域のニーズを取りこぼしてしまうことが多々あります。特に過疎の地域ではその傾向があります。ついては、Aの部分の書き方を考えていただいた方がよいと思います。

座長 その通りです。タクシーという言葉を入れるか、あるいは、「他」になるかだと思います。

委員 自動車を減らすとしたら、何をを使うのかと考えると、自転車も一つだと思います。アシスト付自転車の購入について、市が補助金を出すのも一つの方法だと思います。

座長 公共交通の利用を考えるときには、バス停までのアクセスも大切になります。その意味で自転車もとても大切になりますが、事務局いかがですが。

事務局 この後の交通戦略においては、自転車、歩行者計画もあります。安全に歩行者、自転車が通行できる空間を配分することや結節点への移動手段としての歩行者、自転車に対してどういった施策が実施できるのかといったことも、皆さんにご提案いただきたく、後ほど説明をさせていただきます。

座長 自転車への補助ということは直接は書けないかもしれませんが、アクセスの手段としてはあるということを書いていただいて、この後説明いただく交通戦略の方でどういうことができるかということを考えていきたいと思います。

②都市総合交通戦略の戦略プランの検討について

事務局 （資料に基づき説明）

座長 少し頭を切り替えていただいて、今度は名張市の交通全体、自転車、歩行者、自動車も含めた交通戦略を策定するにあたって、皆さんにご協力をいただきたいと思います。具体的には、戦略の上位計画にあたる名張市総合都市交通マスタープランに書かれている施策の例を挙げております。今度は、いつ・誰がこれらの事業を実施するかというアクションプランを書くこととなります。したがって、事業者の方が、今こんな計画があるといったことを情報提供いただいて戦略として策定していきたいと考えております。この施策例の中からいくつか挙がってくるのが想定されますし、また、ここにはない新たな施策も挙がってくるかと思っております。いずれにしても、事務局へ情報提供をお願いします。今お気づきの点があればお聞かせください。具体的にどうやって情報提供いただくかは事務局から案内があるということによろしいですか。

事務局 後日、ご案内させていただきます。

座長 この後、事務局から各事業者の方々に情報提供のお願いがあると思いますので、ご協力いただくとともに、新たな施策についてもご検討いただければと思います。

③その他

事務局 次回会議の開催日程につきまして、1月12日（火）または1月20日（水）のどちらかでお願ひしたいと考えております。決定次第ご連絡させていただきますのでよろしくお願ひします。

座長 長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。皆さま方のご協力に感謝を申し上げ、進行を事務局にお返しします。

事務局 長時間にわたりご協議をいただきありがとうございました。
これもちまして、第2回名張市地域公共交通会議を終えさせていただきます。